

# 大好き！絵本

初瀬 恵美



『からだからでるでる』

さく: La Zoo  
え: あさぬま とおる  
出版社: 学研

朝晩の寒暖差が激しく、園では体調を崩し気味のお子さんがとても多くなりました。熱・鼻水と鼻づまり、咳が続き、苦しそうにしているお子さんを見ると、心配になりますよね。先週、神奈川県「たかはし耳鼻科」さんのホームページを抜粋してお便りを配布しましたが、読んでいただけましたでしょうか？熱・鼻水と鼻づまり、咳には、ちゃんと理由があり、体に入ったウイルスや細菌から体を守るための働きだということが、わかりやすく書かれていましたね。その話をもっと、分かりやすく絵本にしたのが、今月紹介する『からだからでるでる』です。7・8月号のからたち便りでも紹介した『からだ だいすき えほん』シリーズの一つです。

あざやかな表紙はタイトル通り男の子の体からいろいろでてます。汗に鼻くそ、おならに血、そして熱、あか、あくびにげっぷ、げろ、めやに、うんち、くしゃみ、おしっこと13種類のものがとびでてます(笑)。なんだか、臭い、汚い、嫌なものというイメージのものばかりですね。でもそれらが体から出る理由はちゃんとあり、その理由がおもしろおかしく書かれています。

例えば、はなくそ。「はなを ほじって、ああ すっきり。どうして はなくそが でるのかな。」「はなくそは、はなみずに くっついた ごみの かたまり。くうきのなかには、めに みえない ちいさな ごみが、いっぱいあります。ごみが からだの なかに はいらないように、はなげと はなみずで つかまえるんです。」と説明のあと、「ひとまえて ほじるのは、かっこわるから やめようね。」とクスッと笑いを誘う一言が入っていたりもするんです。

その他にも熱に関しては「ねつ」。「からだが あつくなくて、もえてるみたい。なんだか めも まわっちゃう。どうして ねつがでるのかな。」…略…「ウイルスは、あついのが だいきらい。のうのはたらきで からだを あつく して、ウイルスが よわった ところを、はっけっきゅうが やっつけます。」と書かれています。「ウイルス」とか、「はっけっきゅう」とか、難しい言葉も使われていますが、熱は火の玉のような絵、ウイルスは、悪者の顔、白血球はエージェント風ないでたちで描かれ、それぞれの役割を想像しやすく工夫されて描かれています。

子どもたちが身近な身体の現象を知るには、とても良い教材になる絵本だなと、思いました。ぜひ、お子さんと一緒に「体からでるでる」いろいろなものに、目を向けてみては、いかがでしょうか。すべて、ちゃんとした理由があるものだという事も、よくわかり、とても楽しいと思いますよ！

